

統計委員会基本計画部会第2ワーキンググループ会合（第15回） 議事概要

- 1 日 時 平成20年7月11日（金）10:00～12:40
- 2 場 所 中央合同庁舎4号館共用第4特別会議室
- 3 出席者 竹内（委員長）、舟岡委員（座長）、阿部委員、岩本委員、大守委員、黒田委員、田辺委員、中村委員、野村委員、樋委員、三輪委員、門間委員、山澤委員、吉岡委員
内閣府、総務省、財務省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本銀行、東京都、埼玉県

【事務局】

中島内閣府統計委員会担当室長、長谷川内閣府統計委員会担当室参事官
犬伏総務省政策統括官付統計審査官

- 4 議 事 (1) SNAについて
(2) 環境統計について
(3) サービス活動分野の統計（質の評価が困難なサービス活動）について
(4) 報告骨子案の検討
(5) その他

5 議事概要

(1) SNAについて

門間委員から、資料1に基づき、「GDPの精度向上に向けた検討」について、説明があった。主な質疑は以下の通り。

- ・ FISIMを含めないことによって、既に導入している諸外国のGDPと比べ、日本のGDPが過小推計される恐れがあるのではないか。
- ・ FISIM自体の推計は続けていくが、FISIMをQEのヘッドラインの中を含めるかどうかという議論であり、FISIMが信用に足るものかどうかという自信がない段階においては、確報に入れてもQEには入れないという選択肢もあるのではないか。
- ・ 日本の統計は理論に反することはなるべくやらないという非常に身ぎれいな統計ではあるけれども、身ぎれいであるがゆえに、ノイズがとても大きいという逆の問題もあるので、基礎統計のノイズ処理について検討する必要性はあるのではないか。
- ・ 今回の提案はいずれも重要なことだと認識。適宜、国民経済計算部会の適切な専門委員会で議論をさせていただきたい。具体的な検討スケジュールリングについては、

既存の業務とのバランスもあるので、若干幅を持たせていただきたい。

- ・ 統計法の審議が国会でなされたときの附帯条件の一つに、人材を育成するということも入っている。統計委員会としても、統計整備の観点から、リソース確保について言い続けていくことが重要。

門間委員から、資料2に基づき、「SNA 推計のための基礎統計の整備 (QE)」について、説明があった。主な質疑は以下の通り。

- ・ 生産動態統計の見直しについて、2点ほど問題がある。①リソースを注ぎ込んで零細企業を調査対象に含めても、それでよい統計になるかどうかは分からない。②調査項目を拡充することについても、それ相応のリソースが必要となる。
- ・ QEの発表時期について、何年か前にかなり早くした経緯はあるが、最近、他の諸国もなお早期化をして、それらに比べるとまた少し遅めになっている。加工統計側で対応すべき問題でもあるが、基礎統計の中で遅いものがあるということも事実なので、その点についても、問題意識は記述しておく必要があるのではないか。
- ・ 法人企業統計の層化抽出の充実については、資本金が昔ほど規模をあらわす指標として有効ではなくなっていることから、今後の経済センサスの結果も踏まえて、違った層化基準の適用について検討するということも必要なのではないか。それまでの間は、継続標本を2年間としたことについて、結果精度にどのような影響を及ぼしたのか、十分な吟味を行うことが必要なのではないか。

野村委員から、資料3「SNA 推計のための基礎統計の整備 (確報)」に基づき、説明があった。質疑については、次回ワーキンググループにおいて改めて行うこととなった。

(2) 環境統計について

吉岡委員から、資料4に基づき、「環境統計の整備」についての説明があった。主な質疑は以下の通り。

- ・ 総合エネルギー統計や、その基となるエネルギー消費統計等の各産業別のエネルギー消費構造をとらえる統計が重要ではないか。また、環境分析用の産業連関表というものができたら、これは基幹統計にふさわしいのではないか。
- ・ 環境全体を統計という観点から見たときに、トータルで一つ一つの環境因子に関してどういうところをどういうふうに押さえれば、より正確に現状がとらえられるかということを一度整理することも重要なのではないか。
- ・ エネルギー消費統計については、現状でも回収率が高いと思っている。基本計画としては、この調査をどうやってサポートするか、支援するかということの視点から考えていく必要があるのではないか。

(3) サービス活動分野の統計（質の評価が困難なサービス活動）について

三輪委員から、資料5に基づき、「「質の評価が困難なサービス活動」等を捉える統計を構築する方針」についての説明があった。主な質疑は以下の通り。また、次回会合においても引き続き質疑を行うこととなった。

- ・ 政府が政策立案の際に必要なエビデンスとなる統計をいかに作っていくかという視点が重要であり、この点についてもっと踏み込んだ検討をする必要があるのではないか。

(4) 報告骨子案の検討について

事務局から、資料6に基づき、「WG2 報告 骨子案（目次）」についての説明があった。主な質疑は以下の通り。

- ・ 「一次統計と国民経済計算との連携強化」の部分については、一般ユーザーにも分かりやすくするため、少し体系的に書く必要があるのではないか。
- ・ 最近のグローバル化をどのように考えるかといった議論も必要なので、SNAだけでは十分議論し切れないような体系的整備の視点についても一項目立てて盛り込む必要があるのではないか。

(5) その他

次回の会合は、「ストック統計」、「労働統計」、「報告書骨子案」及び本日の審議で積み残された議題をテーマとして、7月18日（金）10：00から中央合同庁舎4号館共用第4特別会議室で開催。

以上

<文責 内閣府大臣官房統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>